

情報発信

本館は、東日本大震災被災地の県立図書館として、県内図書館復興のサポートや、経験を後世に伝えるアーカイブ機能としての東日本大震災文庫の構築を行ってきました。さらに、これら震災復興支援の経験から得た知識を全国の皆様に役立ててもらうため、会議やフォーラムなどの機会に積極的な情報発信を行っています。

図書館を使う人、図書館で働く人、図書館に関わる仕事をしている人達が、「図書館の今後」について考え、「新たなパートナーシップ」を築いていくことを目的に、昨年、横浜で開催された「第14回

図書館総合展」においては、宮城県及び県内図書館の被災状況と宮城県図書館が行った支援について報告し、図書館が地域の復興に果たしうる役割を発表しました。また、今年度行われる「第15回図書館総合展」においても、昨年度に引き続き発表を行う予定です。

これら県内図書館復興の状況を全国に伝えることで、全国の支援者と被災地を仲立ちしていくことも、重要な仕事だと考えています。



第64回北日本図書館大会宮城大会レポート

去る平成25年6月20・21日の2日間、宮城県図書館に北海道・東北地域の図書館関係者157名が一堂に集い、「繋ぐ・繋がるこれからの図書館」をテーマに第64回北日本図書館大会宮城大会を開催しました。この大会は、東日本大震災を契機にコミュニティの中核としての図書館の役割を見直し、地域の情報拠点となる新しい図書館づくりを目指して、図書館員はどのようにあるべきか考えることを目的としたものです。

1日目は、基調講演として、国立国会図書館館長 大滝則忠氏に国立国会図書館の職員として、平成14年に開館した国立国会図書館関西館の建設構想に関わってきた経験から、図書館の役割や図書館連携のあり方などについて示唆いただきました。

続くパネルディスカッション第1部では、東日本大震災を契機として始まった様々な支援活動について実践報告がありました。パネリストとして参加された玉川大学の河西由美子准教授からは、発災時の名取市図書館における学校図書館の復旧支援の報告が、日本司法支援センターの鈴木健太郎氏からは、法テラスの南三陸町での図書館と連携した取組、さらにアカデミック・リソース・ガイド社の岡本真氏からは、ボランティア活動の支援などの実践報告がなされ、支援・連携の課題や取組のあり方について問題提起されました。

翌日の第2部では、千葉経済大学短期大学部の齊藤誠一教授や秋田県立図書館の山崎博樹副館長を加え、第1部での問題提起を受け問題解決に向けた支援・連携や人材育成についての具体的な議論が行われました。その中で、図書館職員自らが役割や地域を見つめ直して、それぞれの地域との連携を模索し積極的に行動する「打って出る図書館」となるべきであるとの認識を参加者間で共有することができました。



図書館 around the みやぎ

シリーズ第38回

気仙沼図書館唐桑分館(唐桑コミュニティ図書館)

気仙沼図書館副館長 小野寺 正典

気仙沼図書館唐桑分館は、気仙沼市と旧唐桑町が合併した平成18年7月7日、唐桑地区の初めての図書館として唐桑公民館2階に開館しました。そして、平成25年8月29日、日本テトラパック株式会社の支援により公益社団法人日本ユネスコ協会連盟を通じて、気仙沼市立唐桑幼稚園の敷地内に新たに建築され、気仙沼市に寄贈されました。

場所は、県道沿いの高台で、近くには唐桑総合支所・唐桑公民館・唐桑体育館・唐桑小学校があり、唐桑地区の中心市街地に位置しています。

気仙沼市図書館3館の中でも、児童図書の高比率の図書館でしたが、新館開館を機会にその蔵書構成がより高められるとともに、新聞・雑誌や視聴覚資料が充実され、大人にも魅力のある図書館となりました。また、飲食等が可能な多目的スペースを設け、読み

聞かせなどの催し物を行うことができ、地域の人たちが気軽に立ち寄りお茶飲み会などをしながら交流できる場が確保されました。

168㎡余りの小さな図書館ではありますが、天井も高く、採光に優れ、全てがコンパクトで瀟洒な建物になりました。子供たちが未来への希望や夢を育める読書施設として、今後は地域の人たちに無くてはならない施設として親しまれる図書館を目指して行きたいと考えています。

気仙沼図書館唐桑分館	
蔵書冊数	児童書：約5,000冊 一般書・その他：8,000冊
開館時間	午前9時～午後7時 (土・日曜日は午後5時まで)
●休館日	毎週月曜日、毎月第4木曜日、 年末年始
住 所	〒988-0535 気仙沼市唐桑町馬場143番地1
電 話	0226-25-7845

